

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念、ホームの理念等を事務室に掲示し、朝礼や会議等で読み合わせを行い、意義を高めて実践へと繋げている。	事務所には経営理念、ビジョン、社是、日常の五心が掲げられている。また、今期のスローガンが掲示され、更に、「次の行動を達成しましょう」と3項目からなる職員の指針ともいうべきものが机の上の目につく場所に置かれていた。家族には理念に沿ったケアについて説明をし、職員も理念に沿い当り前のことを当り前に行動できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園や小学校との交流、中学校の福祉体験、短大生の実習受け入れている。また、行事の時などには地域のボランティアさんにも来て頂き交流の機会を作っている。	地域密着を目指し、市内2中学校の生徒の福祉体験や短大の実習生を受け入れている。また、定期的に保育園児と交流し、小学校の音楽クラブ児童の合唱披露の訪問もある。行事の時などにはハンドベル、太鼓、フラダンス等のボランティア訪問があり、今年もホームの夏祭りを回覧板を利用し広報したという。近所の方から野菜、果物、花などの差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	臼田地区の「健康と福祉の集い」に参加し啓発活動を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出された意見等を職員に伝達し職員会議の場で検証しサービスに反映させている。	2ヶ月に1回開催し、家族代表、利用者代表、区長、民生児童委員、有識者、市職員、地域包括支援センター職員などが出席し、利用者の状況やヒヤリハット・事故などの報告後、意見交換をしている。地域の基幹病院近くの「健康館」の利用やホームからの案内を回覧板で広報する時に「ボランティア募集の表記をしたらどうか」など、委員の方々からの活発な意見や提案があり、ホームの運営に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき連携をとっている。また、市内のグループホーム連絡会にも参加し情報・意見交換をしている。	毎月開催される地域ケア会議に出席し勉強会や情報交換をしている。2名の介護相談員が毎月来訪し利用者の話を傾聴したり、相談に応じている。介護保険の認定更新時には家族からの依頼により代行申請をしたり、調査に立ち合い利用者の状況を伝えている。市から働き掛けのあったグループホーム連絡会へも出席しその場での情報等を運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が常に心がけており、会議や勉強会の場で定期的に話を出し拘束を行なわないケアを行なっている。夜間の玄関の施錠以外は施錠せず、職員が寄り添い見守りを行なっている。	法人の方針もあり行っていない。また、玄関は施錠しておらず、新しい利用者など、外出願望がある方には利用者本位を旨に行動するようにしている。拘束に当たるか当らないかは職員同士で事例を演じてみて話し合い確認をしている。ホーム周辺の道を車いすで移動されている方を見て住民がホームへ連絡してくれたことがあったが、実際はホーム利用者ではなく、住民の気遣いがあったがたかったという。	

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	事故防止委員会や、接遇委員会からの報告や職員会議等で話し合いの場を持ち防止に努めている。また、法人内の虐待防止研修会にも参加し、参加後には伝達研修を行い情報共有をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要がある家族や関係者に話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面や口頭で説明を行い理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夏祭りや忘年会にはご家族の参加も呼びかけ、家族会の場とし、意見や要望を聞いている。また、面会時にも日々の様子をお伝えし、家族からの意見を聞き、カンファレンスや職員会議の場で伝達している。	家族がふれあう機会として運動会、忘年会が生まれ、利用者や家族、職員の交流が図られている。家族の来訪はそれぞれの都合で回数は様々であるが、来訪された際には利用者の状況の説明や今後の相談などを行っている。誕生日など行事がある時にも家族に声をかけている。毎月ホームの新聞「うすだ愛の交差点」とホーム長・担当職員による利用者の状況報告「ホームだより」を家族の元へ届けている。現在写真などを取り入れたメールでの対応についても検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には週報や法人運営会議の場で報告している。現場では職員会議や個別面談で意見や提案を聞き、反映させている。	毎月1回職員の都合を聞きながら全員参加を原則として定例会議を行っている。法人からの連絡、イベントの反省、利用者の状況などの話し合いをし、管理者による進行で記録係は職員が順番で行っている。キャリアパスも導入されており、個人面談も年2回行われている。メンタルヘルス不調の未然防止のための職員のストレスチェックも実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し自己評価・目標を掲げ向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での勉強会の実施、法人内外研修、佐久圏域グループホーム連絡会での研修などにも参加し勉強の場を提供している。また、各種資格の取得についても推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括連絡会やグループホーム連絡会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の想いや暮らしぶりを早期に知り、本人の声を聴くようにしている。本人の安心を確保する為にも傾聴しコミュニケーションをとり関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み時や契約時などに家族の想いなどを十分に聞き、信頼関係構築に努めている。また、面会時にも常に声を掛け日頃の様子を話し、家族からの想いや情報を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等の話し合いの他、担当ケアマネジャーや利用していた事業所から書面や口頭で情報を得て対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭におき声掛け支援を行なっている。掃除や洗濯など日常生活活動を共に行なっている。個々の性格や状況により入居者様主体の暮らしが出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント時に家族参加も呼びかけ、一緒に過ごす時間作りや、面会時に本人の様子を報告し情報共有している。また、毎月ホーム便りでも近況などを報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方の面会が自由に出来るようにしている。	友人の訪問を受ける利用者がある。自宅で法事などがあった時に合わせ遠方の親戚が来訪したり、携帯電話を所持している方もおり家族などと連絡を取り合っている。家族と一緒に馴染みの美容院を利用している方や盆暮れに外泊・外出をしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶、レクなど入居者様同士が触れ合う機会がある。食事作りやレク等でお互いのユニットを行き来し、入居者様同士が声を掛け合う雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族にお会いした時には積極的に声を掛け、その後の様子や悩み等はないか伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どの様に生活をしたいか尋ねたり話を聞いて対応している。困難な場合には対応方法を常に検討している。	個人でスポーツ新聞を購読し在宅の時と同じスタイルで過ごされている方がいる。テレビや新聞のニュースなどを見て「行きたい」と要望を伝えられる方もいる。利用者から「やれることがあったらやるから言って」と言われることもあり、利用者本位という基本を大切にし、職員の思い込みで対応しないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報を得たり、担当ケアマネジャーや利用していた事業所などからも提供表や口頭での情報を得ている。また、普段からも本人とのコミュニケーションの中からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の有する力を共に生活する中で見つけている。毎日のバイタル測定や食事排泄などの情報を全職員が共有している。日々の変化についてはその都度職員たちに伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、本人家族の意見を取り入れ計画を立てている。	利用者の担当制を取っている。担当職員は利用者の情報を収集し、利用者の希望や気持ちの代弁者となっている。家族の要望も聞き入れ、毎月行われるカンファレンスで話し合い、計画作成担当者が定期的に見直しを行い計画を作成している。利用者の高齢化は進んでいるがレベル低下はあまり見られないという。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録の他に、職員間の連絡ノートを活用し速やかな情報共有を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況観察や家族との話し合いの中でニーズを把握し、これに極力添えるように職員間で協議し、可能な範囲で柔軟に対応している。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑作りや保育園、小学校との交流をしたり、ボランティアさんに来所していただき楽しめる工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に往診または受診し、連携を取っている。	利用開始時に家族の要望に沿い決めている。通院は原則家族にお願いしているが、都合で職員が付き添うことも可能である。医療に関しての家族への連絡や相談は管理者が看護師としている。協力医による往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が、協力医療機関の看護師と連携をとり、報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が面会に行き状況把握している。カンファレンスにも参加し、医師看護師と情報交換し早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合、家族や主治医と話し合い支援している。終末期についても、本人、家族、主治医、職員間で話し合いを持ち希望に添った対応を心がけている	契約時に「重度化した場合における対応に係わるホームの指針」を説明している。今年春、看取りを行った。契約時の話し合い、入院や体調が悪い時など、その都度、家族の意向を確認している。亡くなられた利用者のホームからのお見送りについても他の利用者を意識することなく普通に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の救急法勉強会に参加するほか、ホームでも勉強会を行い有事に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜それぞれを想定して訓練を行っている。その都度反省会も行い改善に努めている。また、消防署の協力も得て消火器訓練等も行っている。	年2回訓練を行っている。秋の訓練は消防署員参加の下、昼間想定で利用者全員参加で実施した。消防署員からの実地指導があり、職員側としての反省もあり、次回に活かそうとしている。区の関係者からも水害時はホームが区の指定避難場所より安全と言われており、備蓄としてカセットコンロ、食料品、オムツなども用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気持ち良く安心して生活が送れるように一人ひとりにあった声掛けを行い対応している。入居者様それぞれに輝き、活躍されていた時期があった事を常に頭に置き尊敬心を持って対応するよう心掛けている。	毎年行われている研修に接遇研修も入っており、利用者には敬意をもって接している。入浴やトイレの異性介助についても性別関係なく、利用者が拒否反応を示す時は職員を交代し利用者の意に沿うようにしている。事務室には「利用者様のために職員一丸となり質の高いケアを目指します」というスローガンが掲げられ実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が選択出来る様な声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の大まかな流れは決まっているが、その日その時に希望があれば尊重し希望に添えるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな衣服を着て頂く様にしている。また、髪の毛や髭などにも気を配り、声掛けし出来ない部分には支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや食器拭きなど一緒に行っている。食の好みも聞き取り、誕生日などには本人の好みの物を作りお祝いしている。	全介助の方もいるが多くの方は常食で自立されている。職員と一緒に同じものを食べ感想などを言いながらの食事をしている。干し柿づくり、おはぎやお団子づくり、お稲荷さんの袋詰めなど、職員と一緒に作り楽しく食べている。外食として回転寿司の利用もあり利用者も普段小食の方が沢山食べ好評であるという。また、敬老会には地域ならではのフナの甘露煮なども提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食、きざみ食、ミキサー食など希望や状態に応じて対応している。飲み物の種類も色々揃えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが出来る人、声掛けすれば出来る人、うがいが出来る人など見極め毎食後行っている。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導をしながら排泄パターンをつかみ、パット等無駄に使用しないように職員会議等で話し合いをもっている。また、座位が取れる入居者様の排便についてはトイレ誘導で対応できる時もある。	基本的にトイレでの排泄とし、また、自立のための支援をしている。自立の方もいるが定時で声がけをトイレへ誘導するなど、一人ひとりに対応をしている。リハビリパンツから布パンツに変更された方もおり、体調を見ながら仕様を変えることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や飲むヨーグルトなどの乳製品を取り入れている。さつまいもやごぼうなど食物繊維の豊富な食材も取り入れ自然排便を期待している。オムツ使用している方でも、便秘の訴えがある場合はトイレに座っていただき排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めてしまっている所もあるが時間は入居者様に合わせており、温度やジャグジー等限られた中で希望に添って支援している。	日曜日以外は毎日お風呂の用意がされている。浴室にも暖房が施され脱衣場も浴室も寒さは全く感じなかった。季節に合わせたお風呂を実施したり、利用者の入りたい時に入れるように対応している。寝たきりの方も職員二人の介助を受け、安全に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を天日干ししたり、リネン交換し気持ちよく休めるように支援している。安心して休めるように声掛けも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにまとめてあり、いつでも確認できるようにしてある。今後、薬の変更等とあった時には会議等でも確認していく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクや工夫したり、季節の行事を取り入れている。食事や洗濯、掃除など得意な事、出来る事を役割分担している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブ、散歩など戸外へ出掛けられるように心がけている。個別に外出できる工夫が今後必要。	多くの方が自立歩行であるが、天気の良い日には車いすの方も含め近所を散歩している。春の桜、夏のヒマワリ、秋のコスモス・栗拾いなど、外出行事も多く利用者も楽しんでいる。今年、近く文化ホールでの浄瑠璃公演を見に出掛けた利用者もいる。	

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解しているが、家族の希望で所持せれていない事が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があると、受け継ぎゆっくと話せるようにしている。また、携帯電話を所持されている方もおり自由に掛けたりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と共に掃除等行うことで気持ちの良い環境づくりに心がけている。季節の花を飾り工夫している。	2つの玄関があり、職員の顔写真、名前、コメントが書かれたボードが来訪者を出迎えている。食堂には床の間のある畳スペースがあり、掛け軸が下げられ、ひな祭りの時はお雛様が飾られるという。訪問調査時にはクリスマスのリースが飾られ落ち着いた雰囲気であった。法人で毎年行われている環境整備点検があり、昨年はホームとして「環境整備賞」を受賞している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室などでお茶を飲みながらゆっくり過ごしていただく事もある。また、気の合う入居者様同士が過ごされている際はその空間を壊さないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の意向を取り入れて対応している。使い慣れた家具を持ち込んでいる居室もあり、写真や花なども置かれている。	エアコン、ベッド、クローゼットが備え付けられており、片方のユニットには洗面台が付いている。ダンス、収納用簡易ダンス、テレビなどが持ち込まれ利用者が使い易いように配置されている。出窓に鉢植えや布団を干している利用者もいる。誕生日のにこやかな写真や家族の写真なども飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂、居室には絵や名前があり分かりやすいように工夫している。		